



2023年2月27日 JTSU-E 大地申第3号

烏山線全線開業100周年、利便性向上と 利用促進に向けた申し入れ 提出!

烏山線は、烏山城下の町を結ぶ、烏宝軽便鉄道として計画され、常磐線を結ぶ計画の一部として、1923年に全線開業しました。沿線は自然豊かな地域であり、7月にはユネスコ無形文化遺産山あげ祭が開催され、国内外から多くの観光客が訪れます。

しかしながら、人口減少やモータリゼーションの変化によって乗降客は減少を続け、昨年7月28日、JR東日本は1日あたりの平均通過人員が2,000人未満の線区(35路線66区間)の経営情報を公開し、関係線区に含まれていることが明らかになり、3年かけて関係自治体と持続可能な交通体系について話し合っていくことになりました。

烏山線沿線には高等学校、中学校、小学校、特別支援学校があり、通学には必要不可欠な路線です。

輸送サービス労組大宮地本は、那須烏山市議会と高根沢町議会との意見交換会を開催し、自治体の考え方やご意見を受けてきました。全線開業100周年を迎える記念すべき年として、今後の利便性向上と利用促進に向けて大宮支社と議論するために、申し入れを行いました。

1. 関係自治体等とのこれまでの利用促進の取り組みの成果を明らかにすると共に、全線開業100周年に向けた取り組みについて、いま現在検討している案を示すこと。
2. 利便性向上として、EV-E301系(ACCUM)にSuica対応の運賃箱等を設置すること。
3. 入学時期の通学時間帯や繁忙時期の混雑を想定した柔軟な車両運用と、それに伴う教育訓練を検討すること。
4. 烏山線を幅広く利用者から注目してもらえるよう「サイクルトレイン」として売り出し、利用促進へと繋げていく考えについての会社の見解を示すこと。
5. 今申し入れに対する回答は、2023年3月31日までに行うこと。また、団体交渉においても2023年3月31日まで実施すること。

**働く私たち、鉄道利用するお客さま、沿線自治体とともに
利便性向上と利用促進、鉄道の未来を考えていきます!**